OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	初級日本語学習者における終助詞「ね」の習得 : カザフスタンの学習者を対象に
Author(s)	ラヒムバエヴァ, ナジム
Citation	日本語・日本文化研究. 2017, 27, p. 160-169
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69225
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

初級日本語学習者における終助詞「ね」の習得
—カザフスタンの学習者を対象に—

ラヒムバエヴァ　ナジム

1　はじめに

日本語の終助詞は話し手の態度や気持ちを表すのに不可欠な役割を果たしているため、日本語学習者にとって身に付けなければならない重要なものである。中でも「ね」は初級レベルで、終助詞「か」と共に早い段階に導入される。しかしながら、「ね」は多様な機能を持つため、その習得は困難であり、上級になっても適切に使えず、使うことを避けるという傾向さえみられる。「間違って使ってしまった時に相手に与える違和感や不快感の度合いを考えると『が』や『を』よりもさらに時間をかけて『ね』や『あのー』を教えるべきではないか」（山内 2004）と、対人関係における役割を重視する指摘もある。

本稿では、カザフスタンの日本語学習者における終助詞「ね」の理解度を考察し、その向上を目的に、日本語の終助詞「ね」とカザフ語の文末表現の対応について論じる。

2　終助詞「ね」に関する先行研究

2.1　日本語学における終助詞「ね」の研究

終助詞「ね」の先行研究は、他の終助詞の研究と比べて非常に多く、様々な観点から分析が行われてきた。情報（知識）や認識といった概念を用いて分析がなされた一連の研究としては、大曽（1986）、森山（1989）、神尾（1990）、益岡（1991）などが挙げられる。このような観点に立つ研究の主張点は、「ね」は「基本的には聞き手側に情報があると見なされる場合に使われ」、「話し手と聞き手が同一の情報をもっている、共有していることを示す」というものである。次の対話は、その典型的な例である。

(1) A：今日はいい天気ですね。
　　B：そうですね。

しかし、(2) のように聞き手が知らない情報について「ね」が使用されている例を挙げ、上記の主張と矛盾をきたす「ね」の存在が金水（1993）等によって指摘されている。

(2)　A：今何時ですか。
　　B：ええと、7時ですね。

金水（1993）や田窪・金水（1996）などが提唱する「談話管理理論」の枠組に沿って行われた、「ね」は「命題の妥当性を計算中である」と提案した研究をはじめ、加藤（2001）

などの語用論の観点からなされた研究は多くの関心を集めている。

2.2　日本語教育学における終助詞「ね」の研究

日本語教育においては、学習者による終助詞「ね」の誤用に注目し、習得の状況を分析する研究が多く行われてきた。

水谷（1984）は聞き手への関心を表す表現の誤用と非用という視点から、学習者の終助詞「ね」と「よ」などの例を挙げ、学習者に話し言葉を教える際に「聞き手を意識する」教育が大事であると指摘し、聞き手を前提とする話し言葉では、聞き手に対する配慮の欠如は、人間関係にマイナスの影響を与える可能性が高いと述べている。

大嶋（1989）は国立国語研究所の『現代語の助詞と助動詞―用法と実例―』（1951）で提示された終助詞「ね」と「よ」の各機能を基に、中・上級学習者に終助詞の使用状況を調べた。その結果として、学習者に理解力があっても運用力は必ずしも伴わないと指摘している。

福島（1994）は初級日本語教科書に見られる終助詞「ね」を取り上げて分析し、その用法・機能を学習者が十分理解するためには、「ね」の機能・用法について教科書で適切な解説が必要であると主張している。

熊（2010）は話し手と聞き手のどちらが情報を多く持っているのかによって、「ね」の用法を「聞き手情報」「話し手情報」「共有情報」に大きく分類し、それぞれを発話機能の視点から分析している。さらに、初級日本語教科書の「ね」を中国語に対応させ、中国語を母語とする話者日本語学習者を指導する際の注意点を示している。

3　研究の目的及び方法

従来、終助詞「ね」とカザフ語との関連を扱った研究はなかった。それゆえ、本稿では、終助詞「ね」の意味機能をカザフ語でうまく伝えるためには、どのような表現を利用するのが適切であるかという基礎的な考察から始める必要がある。さらに、カザフ語話者が「ね」をどの程度理解できているかに関するデータも皆無と言ってよい。それゆえ、本稿で次節のような目的を設定した。

3.1　研究目的

本稿では、以下の4点をその研究目的とする。

- カザフスタンで使用されている日本語教科書における終助詞「ね」の解説状況を探る（第4章）。
- 終助詞「ね」とカザフ語の文末表現の相違点と共通点を明らかにする（第5章）。
- 初級学習者による終助詞「ね」の理解度を調査する（第6章）。

- 学習者の母語であるカザフ語からの影響について考察し、学習者が終助詞「ね」を使用する上でどのような問題が起こり得るかを明らかにし、教育上の留意点を探る（第 7 章）。

3.2　研究方法

上記の研究目的を達成するために、以下のような方法で考察を進めて行く。

- 日本語教科書で記されている終助詞「ね」に関する定義を調べる。
- カザフスタンのアスタナ市における日本語教育機関の初級レベルで使われている日本語教科書『みんなの日本語』初級 I、初級 II を取り上げ、終助詞「ね」の例文をカザフ語に対応させ、機能ごとに相違点や共通点を探る。
- 終助詞「ね」を適切なカザフ語に対応させるために、筆者を含む複数のカザフ語母語話者で文脈に則した適切な翻訳を試みる。
- 初級レベルの学習者 15 名を対象に終助詞「ね」の理解度をはかるアンケート調査を行う。

4　日本語教科書における終助詞「ね」

管見の限り、カザフ語で文法説明等が書かれた日本語教科書はまだ存在しない。それゆえ、現在、カザフスタンでもっとも広く使われていると考えられるのは『みんなの日本語』ロシア語版である。そこで、当該の教科書で終助詞「ね」がどのように解説されているかを調べたところ、次の 2 ヵ所でのみ説明があった。まず、第 4 課で提示されている終助詞「ね」の説明は次の通りである。

> 終助詞「ね」は話し手のことばを感情的に色づける。例えば、話し手が聞き手に会話への参加を期待したり、聞き手の同意を要求したりする。また情報確認を求めるためにも使われる。（筆者訳）

同教科書の第 19 課では、「そうですね」という表現について、次のように解説されている。

> 「そうですね」は、話し手が相手の意見や感情を共有していることを示す。イントネーションが下がる「そうですか」(↘)は同じ意味で使われる。しかし、「そうですか」（↘）は知らなかった情報に関する驚きの気持ちも表す。「そうですね」は逆に話し手が聞き手と同じ考えであり、同じことを知っていることを示し、同感や同意であることを表す。（筆者訳）

当該の教科書で示されている終助詞「ね」の用法は、「会話への参加の期待」、「同意の要求」、「情報確認」、（「そうですか」について）「同感や同意」である。先行研究を参考にしながら「ね」が有するこれらの用法や他の用法を整理し、それぞれの用法がカザフ語

でどの表現に対応するかを次章で考察する。

5　本稿で扱う終助詞「ね」の用法分類とそのカザフ語訳

5．1　終助詞「ね」の用法分類

本稿では、「ね」の用法を、話し手と聞き手とどちらが情報を多く持っているかによって、「聞き手情報」「話し手情報」「共有情報」の 3 つに分類した熊（2010）を参考としながら、日本語とカザフ語がどのように対応するのかについて考察を行っていく。熊（2010）は、これら 3 種の「ね」の機能を、さらに 7 つの用法に下位分類している（表 1 参照）。

表 1　「ね」の用法

情報の持ち主	用法	例文	必須か
聞き手情報	確認	やまと美術館ですね。	必須
共有情報	同意要求	暑いですね。	
	注目表示	それは大変でしたね。	
	同意表明	そうですね。	
話し手情報	見せかけの同意要求	大切にしますね。	任意
	自己確認	僕はあまり考えたこと、ありませんね。	
	回想	あまり売れませんでしたけどね。	

「ね」が必須になるケースと「ね」の出現が任意であるケースに分類する視点は重要だと思われる。「ね」が必須のケースとは、「ね」を伴わない発話が不適格になるケースである。ここで「任意」と呼ばれているのは、「ね」がある発話もない発話も不適格にならないケースのことである。ただし、任意であると言っても、「ね」があるかないかによって、発話の機能や位置づけが変わることが考えられるので、実質的には「任意」とは言えない。「ね」がなくても不適格にならないということと発話の機能や意味に違いがないということとが同値ではない点には留意しておく必要がある。

5.2　「ね」とカザフ語文末表現の対応

『みんなの日本語』初級 I、II で使用されている終助詞「ね」の例文を熊（2010）に従って機能ごとに分類し、カザフ語の文末表現との対応を考察した結果、カザフ語では日本語の「ね」に対応する表現が複数存在することが明らかになった。使用頻度が高い順に挙げると、yä?、ma/pa/ba?、eken である。それと同時に注目すべきは、日本語の「ね」と異なり、これらのカザフ語の表現（「マーカー」）は、使用しなくても伝達意図を大きく損なわない場合が多いということである。（表 2 参照）

表 2　終助詞「ね」の機能とカザフ語の文末表現の対応

情報の持ち主	用法		例文数	マーカーなし	yä?	ma/pa/ba?	eken
聞き手情報	確認	持っている情報の確認	5	×	○	○	×
		繰返し確認	9	○	○	○	×
共有情報	同意要求		65	○	○	×	×
	注目表示		73	○※(1)	×	×	○
	同意表明		20	○	×	×	×
話し手情報	見せかけの同意要求	行為要求	5	○	○※(2)	×	×
		意思表示	0	○	×	×	×
		応答	3	○	×	×	×
	自己確認		1	○	×	×	×
	回想		1	○	×	×	×

※(1)　文末に何も付かないが、発話を強調するために「なんて」の意味を持つ疑問詞 netken を使うのが自然である。

※(2)　文末に yä?が付くが、日本語の終助詞「ね」の機能と異なり、話し手の要求の働きかけを強める働きを持っている。

日本語の場合は［聞き手の情報］と［共有の情報］の場合に終助詞「ね」の使用が必須であるのに対して、表 2 でわかるように、カザフ語発話の場合は上記の表現の使用が「任意」、すなわち、「マーカーなし」でも問題ない。つまり、カザフ語では文末表現を使わなくても自然な会話が成り立つ点が日本語との大きな相違として挙げられる。［同意表明］の「そうですね」「いいですね」がカザフ語では「そうです」「いいです」のように文末表現を使わないのも同様である。これは、カザフ語では「聞き手に対する意識」を明示しなくても、発話意図が伝わり、適切に会話が成立することを示唆する。

表 2 で見られる日本語終助詞「ね」とカザフ語の対応について、以下のような点についても指摘しておく必要がある。

・yä?は、「はい」に相当する語 yä を、上昇イントネーションで発音したものである。つまり、「そう？」、「そうでしょう？」というような意味合いで使われ、情報の適切さを要求することになり、［同意要求］や［行為要求］に相当する場面で「ね」と対応すると考えられる。

・［確認］の「ね」の場合は、カザフ語で疑問助詞 ma/pa/ba?が使用されることが多い。この疑問助詞は日本語の終助詞「か」に相当する。つまり、カザフ語では、確認する場面では、質問という形式が取られていることが分かる。

・［共有情報］の［注目表示］で用いられる eken は、発見や伝聞を表すことをその機能とする。これは、終助詞「ね」の注目表示（の一部）が発見と何らかの関連があることを示唆しているのかもしれない。カザフ語の eken は他者からの伝聞による発見にも使用され、一般的に、日本語の「～らしい」「～そうだ」「～のだ」になるため、eken が用いられる場面において、日本語で終助詞「ね」を用いることができるかどうかににについては注意が必要である。

6　アンケート調査とその結果

6.1アンケート調査

カザフ語母語話者の終助詞「ね」に関する理解度をはかるために初級日本語学習者 15 名を対象にアンケート調査を行った。初級日本語教科書に使われている用例を参考にして、「ね」が有する機能それぞれについて、質問（合計 20 の会話）を作成した。各質問に「か」「ね」「Ø」(＝なし)の 3 つの選択肢から適切なものを選ばせる形式とした（複数選択可）。また、「そうですね」と「そうですか」の相違を理解しているかどうかを調べるために、「そうですか」が正答となる 2 つの質問を作成した。アンケート調査に使用した質問用紙は、本稿の末尾にある【補遺】を参照されたい。アンケート結果は表 3 の通りである。数字はそれぞれの選択肢を選んだ人数を表す。

表3　アンケート調査の結果

質問番号	機能	学習者					正解
		ね	か	Ø	ね/か	ね/Ø	
1	確認	6	2	6	1	0	ね
8	確認	9	6	0	0	0	ね
15	確認	11	1	3	0	1	ね
2	同意要求	6	3	3	1	2	ね
7	同意要求	2	6	3	2	1	ね
7.1	同意要求	4	1	10	0	0	ね
13	同意要求	11	0	2	1	1	ね
3	注目表示	11	0	0	3	1	ね
16	注目表示	12	1	0	0	2	ね
10	注目表示	13	1	0	0	1	ね
14	注目表示	13	1	0	0	1	ね
17.1	注目表示	12	0	0	1	2	ね
4	同意表明	12	0	2	0	1	ね
9	同意表明	10	0	3	0	2	ね
12	同意表明	12	0	1	2	0	ね
5	見せかけ同意要求	7	3	5	0	0	ね/Ø
11	見せかけ同意要求	2	0	12	0	1	ね/Ø
18	見せかけ同意要求	7	3	5	0	0	ね/Ø
6	そうですか	1	13	0	0	1	か
17	そうですか	1	13	1	0	0	か

6.2アンケート結果

「ね」の機能毎に平均正解率を計算し、その高い順に並べると、［注目表示］＞［同意表明］＞［確認］＞［同意要求］＞［見せかけの同意要求］となる（下の表４参照）。これは、カザフ語母語話者にとって「ね」の習得における難易度を反映していると捉えることができるだろう。すなわち、正解率が高い［注目表示］と［同意表明］は、習得が容易な用法であり、一方、正解率が低い［同意要求］と［見せかけの同意要求］は、習得が困難な用法であると考えられる。ちょうど中間に位置する［確認］の機能の正解率については、考慮すべき点がある。＜質問番号 15＞の正解者数は 11 人である。当該の場面において、明日の会議は１０時からだと伝えていただけませんか」という A さんの発言に対して、B さんが「わかりました。10 時からですねぇ」と答えている。回答者は、「わかりました。」のあとに「か」を用いて質問するのは不自然だと推測し、消去法的に「ね」を選択した可能性が高い。もし、「わかりました。」という前置きがなければ、カザフ語の影響を受け、「10 時からですか」のように質問文で確認する方法を選択した者が多かっただろう。それゆえ、＜質問番号 15＞を除くと、［確認］の「ね」の正解率はさらに低くなる（50%）。これに関しては、さらに検証が必要であるが、第５章での分析からも、［確認］の「ね」の習得はどちらかというと難しい

部類に入ると捉えたい。

表 4　「ね」の習得難易度

情報の持ち主	用法	平均正解率	習得難易度
聞き手情報	確認	58%	難
共有情報	同意要求	38%	難
	注目表示	81%	易
	同意表明	76%	易
話し手情報	見せかけの同意要求	36%	難

以上のことから、カザフ語を母語とする日本語学習者における終助詞「ね」の習得難易度は表 4 のようになると考えられる。先にも述べたように、カザフ人日本語学習者が習得しやすいと思われる「ね」の用法は、共有情報の［注目表示］と［同意表明］である。しかしながら、ここで留意すべきは、［同意表明］がカザフ語ではマーカーなしの表現に対応することである。その点からみると、この機能の「ね」は、カザフ語話者にとって使用が難しく、間違いやすいのではないかと予想されるが、アンケート調査ではその正解率は高く、その理由については、さらに考察しなければならない。

7　結論

第 5 章では、日本語の終助詞「ね」とカザフ語の文末表現の対応関係、そして、「ね」とそれに対応するカザフ語の文末表現について、必須であるかどうかなどの考察を行なった。第 6 章では、カザフ語母語話者の日本語学習者がどの程度「ね」の用法を理解しているかを探るためにアンケートを実施し、第 5 章の考察で得た知見を活用しながら、「ね」の機能毎にアンケート結果を分析した。これらの考察および分析から以下のことが明らかとなった。

まず、終助詞「ね」の使用が必須である［確認］、［同意要求］、［同意表明］の場合でも、「ね」の使用を避けて、「マーカーなし」を選択した平均割合は 23%である。特に［確認］用法の<質問番号 1>では「マーカーなし」を 40%が選び、カザフ語母語話者学習者は日本語で会話をする際、終助詞「ね」が必要な場合でも、それを用いない傾向があることが分かる。これは、日本語の「ね」と異なり、カザフ語では、明示的に文末表現を使用しなくても伝達意図を大きく損なわない場合が多いからである。

上で指摘したように、［確認］の用法については、「マーカーなし」を誤って選択する割合が高く、指導の際には注意が必要である。＜質問番号 1＞で 15 人に 3 人、＜質問番号 8＞で 15 人に 6 人が疑問助詞の「か」を選択しており、不適切な表現になっている。これは、カザフ語ではこのような場合、疑問助詞が用いられることと大きく関係していると考えられる。このことから学習者への指導の際には「確認の場面」と「疑問の場面」とに分けて場面設定するのが重要であると考えられる。

調査した教科書には 36%も掲載されている［同意要求］の「ね」の用例に関する調査結果では、正答率が 13%～73%となっており、用例間の差が大きい。これらの分析結果を個別に

説明することは不可能ではないが、より妥当な説明を得るためには、今後、［同意要求］の「ね」の質問項目を増やして、再度アンケートを実施し直す必要性があると考える。いずれにせよ、同じ機能をもつ「ね」の用法を教える際でも個別に場面を設定しながら教育するのが効果的だと予測される。

［注目表示］の「ね」の場合、平均正答率は 81％であった。15 人のうち 12 人が正答を導き出していることから、習得しやすい機能の一つであると考えられる。カザフ語でもほとんどの場合、明示的な文末表現が使われることから、背景にはカザフ語からの正の転移があると言えるだろう。

［同意表明］の「そうですね」「いいですね」に関しては、「ね」が必須であるのに対して、対応するカザフ語では「マーカーなし」になる。アンケート調査の結果から学習者の 15 人に 3 人は、「そうです」と「そうですね」、「いいです」と「いいですね」の違いを理解していないことが判明した。このことから指導の際には、「ね」と「Ø」を同時に取り上げ、その違いを説明するのが効果的ではないかと考えられる。さらに、［同意表明］は、習得難易度としては、易しい方の部類に入るが、教科書では「そうですね」の解説が分かりにくいのではないかと思われるものがある。この表現は、カザフ語では「マーカーなし」になることも多いため、説明の際には指導の工夫が必要である。また、「そうです」と「そうですね」は、カザフ語では区別されず、いずれも“Yä.”という表現に対応するため、日本語での意味の違いをしっかり説明することが重要である。

調査した教科書で使用されている終助詞「ね」（合計 180 例）のなかで、最も多く出現した用法は［注目表示（40.5％）］と［同意要求（36％）］であった。その次に［同意表明（11％）］と［確認（8％）］が多かった。学習者に終助詞「ね」を教える際には、頻度の高い用法から指導していくことが効果的だと思われるが、［同意要求］は、習得難易度が高いと考えられるため、導入に際しては注意が必要である。

終助詞「ね」が連続して使用されることがある点についても強調しておく必要があるだろう。例（3）では、「ね」が 4 回現れている。それに対してカザフ語訳（3`）では文末表現は 1 回しか使用されていないが、これは自然な会話として成り立つ。日本語のように、カザフ語で文末表現を 4 回使用した場合、しつこく感じられ、また不自然にも感じられる。

（3）A：暑くなりましたね。
　　B：そうですね。もう夏ですね。
　　A：今年はぜひ泳ぎたいですね。
　　B：ええ。

（3`）A：Kün ïsïp kettîØ.
　　B：YäØ. Ĵaz da kelîp qaldïØ.
　　A：Osï jïlï šomïlsaq šïrkîn, yä?.
　　B：Yä.

（MN L19）

終助詞「ね」とカザフ語の特定の文末表現が単純に一対一で対応するわけではないこと、また、カザフ語では、多くの場合、文末に何も付けなくてもいいことから、「ね」の習得は学習者にとって容易ではないことが窺われる。このことから学習者が（意図的に）誤用を避

けようと「ね」の使用を控えることも予想される。その結果、日本語で「ね」を用いるべき場合でも、「ね」の使用を避けてしまい、誤用に繋がることもあり得るため、注意が必要である。

終助詞「ね」は様々な用法を持っているにもかかわらず、教科書に掲載されている「ね」の説明は凝縮されすぎている。その一方で、初級段階でも「ね」の多くの機能が例文に使われている。それゆえ、それぞれの用法に関する個別的かつ詳細な解説が掲載されるべきではないかと考えられる。また、今回の研究では、対象として取り扱わなかったが、フィラーとしての「そうですね」が初級教科書でも使用されている。しかし、そのような用法に対する説明がないため、学習者が「はい、そうです」と混同して使用してしまう可能性が考えられ、その扱いについても検討する必要がある。

今回は、初級教科書に挙げられている用例を分類・考察し、そして、初級学習者の終助詞「ね」に関する理解度を調査した。中級になるにつれて、使用される終助詞「ね」が多様になることを考えると、今後は、中級学習者の終助詞「ね」に関する理解度と実際の使用状況を考察していくことも不可欠である。

参考文献

熊鶯 (2005)「『ね』のコミュニケーション機能―日本語初級教科書と自然会話における『ね』に注目して」『学習院大学大学院・日本語日本文学』創刊号, pp.98-113.

熊鶯 (2010)「日本語初級教科書における終助詞『ね』の機能とその中国語訳」『日本語・日本語教育研究 1』, pp.207-226.

大嶋真紀 (1989)「外国人の発話を不自然にする要因の分析　―中・上級日本語学習者の終助詞の使用をめぐって」『鹿児島大学史学科報告』36, pp.103-112.

大曽美恵子 (1986)「誤用分析 1『今日はいい天気ですね。』―『はい、そうです。』」『日本語学』Vol.5, No.9, pp.91-94, 明治書院.

加藤重広 (2001)「文末助詞『ね』『よ』の談話構成機能」『富山大学人文学部紀要』35,　pp.31-48, 富山大学人文学部.

神尾昭雄 (1990)『情報のなわ張り理論』大修館書店.

金水敏 (1993)「終助詞ヨ・ネ」『言語』Vol.22, No.4, pp.118-121, 大修館書店.

スリーエーネットワーク（編）(1998)『みんなの日本語』(初級 I・II 本冊)　＜略称MN＞

スリーエーネットワーク（編）(2006)『みんなの日本語翻訳・文法解説ロシア語版』（初級 I・II）

田窪行則・金水敏 (1996)「対話と共有知識―談話管理理論の立場から」『言語』Vol.25,　No.1, pp.30-39, 大修館書店.

中嶋善輝 (2004)『明解カザフ語文法・Jan-jaqty tusındırılgen qazaq tılı grammatikasy』府中 (東京) : 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

中嶋善輝 (2013)『カザフ語文法読本』大学書林.

中田一志 (2015)「会話における終助詞『よ』『ね』の意味と用法」『日本語・日本文化』Vol 42, pp.35-51.

メイナード・K・泉子 (1993)『会話分析』くろしお出版.

深尾まどか (2005)「『よね』再考 J『日本語教育』125 号, pp.18-27.

福島悦子(1994)「終助詞『ね』の用法と機能：指導上留意点」『東北大学留学生センター紀要』2, pp.55-62.

Muhamedowa Raihan (2016) *Kazakh: A Comprehensive Grammar*, Routledge.

【補遺】アンケート調査

＊＊＊

以下のそれぞれの会話について、（か・ね・Ø）の中から適切だと思うもの〇を付けてください。○を２つ以上付けてもかまいません。また、質問毎に誰と誰が会話しているかが異なりますので、その点にもご留意ください。なお、「ね」は「ねえ」のような発音も含みます。また、「Ø」は、何も言わない（付けない）ことを表します。

１（知らない人同士の会話）
A：お電話番号を教えていただけますか。
B：235 - 8051 です。
B：235 - 8051 です（か・ね・Ø）。

２（先輩と後輩の会話）
後輩：もうすぐ夏休みです（か・ね・Ø）。
先輩：うん、そうだね。

３（沢山荷物を持っている人Bに対して）
A：荷物が多いです（か・ね・Ø）。お持ちしましょうか。
B：すみません。お願いします。

４（友人同士の会話）
A：映画のチケットあるけど、一緒に行かない？
B：いい（か・ね・Ø）。

５（医者と患者の会話）
医者：どうしましたか？
患者：きのうからのどが痛くて、熱も少しあるようなんです。
医者：では、診てみましょう。かぜです（か・ね・Ø）。

６（知り合い同士の会話）
A：日本料理を作れるようになりたいと思っています。
B：そうです（か・ね・Ø）。
A：いつか日本レストランを開くのが夢なんです。

７（知り合い同士の会話）
A：のどがかわきました（か・ね・Ø）。
（７.１）B：ええ。冷たいものが飲みたいです（か・ね・Ø）。

８（店員と客の会話）
客：これはいくらですか。
店員：350 円です。
客：350 円です（か・ね・Ø）。じゃあ、一つください。

９（知り合い同士の会話）
A：あした時間があったら、テニスをしませんか。
B：いいです（か・ね・Ø）。

１０（知り合い同士の会話）
A：Bさん、日本語がお上手です（か・ね・Ø）。日本に行ったことはありますか。
B：ええ、留学していました。

１１（医者と患者の会話）
医者：ここに薬の説明が書いてありますから、読んでおいてください（か・ね・Ø）。
患者：はい、わかりました。

１２（知り合い同士の会話）
A：暑くなりましたね。
B：そうです（か・ね・Ø）。

１３（知り合い同士の会話）
A：最近、体重が増えてきたので、できるだけ甘い物を食べないようにしています。
B：健康のためにも、そのほうがいいです（か・ね・Ø）

１４（知り合い同士の会話）
A：夏休みは、どうしますか。
B：国へ帰ろうと思っています。
A：いいです（か・ね・Ø）

１５（同僚同士の会話）
A：すみません、田中さんに明日の会議は１０時からだと伝えていただけませんか。
B：わかりました。１０時からです（か・ね・Ø）。

１６（知り合い同士の会話）
A：そのかばん、すてきです（か・ね・Ø）。
B：ありがとう。
A：どこで買ったんですか。

１７（知り合い同士の会話）
A：明日は、何もしないで家でゆっくりしようと思っているんです。
B：そうです（か・ね・Ø）。（１７.１）いいです（か・ね・Ø）。

１８（留学を考えている学生と教師の会話）
学生：日本語の試験が悪かったんです。
教師：それはいけません（か・ね・Ø）